

FRP一体構造化技術を
応用した省エネ商品

株式会社 パワー バンク システム



熊本県
熊本市御幸笛田町5-1-15

代表取締役
木下 雅章

2003年(平成15年)設立
TEL 096-334-6311

<http://www.powerbs.co.jp/>

アルミ蒸着シートとFRPを一体構造化した複合断熱板を技術開発(特許出願)し、従来品に比べ「断熱性・耐久性・価格・重量等」で抜群の優位性を持つボックス等を商品化。さらに当技術応用のソーラーパネル商品と合わせて、事業化を推進中。

事業化への思いと、商品化へのプロセス

企業勤務時代に培った技術・アイデアを基に省エネ事業を起業し、自信のあった省エネ施工事業は予測に反して大苦戦。その後、独自開発・商品化した高断熱性FRPボックスが、大手通信企業に認められ、経営がようやく軌道に乗った。さらに大手太陽電池メーカーと技術提携、ソーラー商品「フジパワーレスキュー」を商品化した。「あなたと一緒に考える未来の地球」というキャッチフレーズで、省エネルギーをライフワークとした事業を展開中である。

高断熱性FRPボックスの特徴(写真①)

半導体機器の収納ボックスは急増傾向にある。「箱内温度を下げたい」「箱が重いと移動が大変」「屋外での耐久性を上げて欲しい」等のニーズが高まっており、まさにニーズに適合する商品である。従来品(スチール/ステンレス製ボックスに断熱塗装)との比較では、断熱・遮熱性(59℃→49℃)、価格(5~8万円→5万円)、重量(40~50kg→18kg)、耐久性(8~15年→20年)となっている。(NTT沖縄での屋外比較評価実績)

ソーラー商品の特徴(写真②、③)

大手メーカーが開発したフィルム型アモルファス太陽電池を活用し、メーカーと技術提携して応用商品(特許出願)の開発を行った。「完全防水、超軽量化、超薄型化、曲面形状可能」という、今までにない画期的な特徴を有する商品である。現在、商品化されたものとしては、フジパワーレスキュー(屋外・海上・船舶用途のマリンタイプ、電源不在地・災害用途の携帯タイプの2種類)があり、それに続く複数のネクスト商品化も進んでいる。



①高断熱性FRPボックスほか



②フジパワーレスキュー(マリンタイプ)



③ポール巻付け型パネル